

令和5年11月29日

郡市区等医師会 御中

大阪府医師会
(公印省略)

シンポジウム「先端的な医科学技術がもつ生命倫理の課題」
のオンライン開催に関するご案内

平素は本会事業に格別のご支援ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、日本医師会より標記シンポジウムについての周知方依頼がありました。

標記シンポジウムは、iPS細胞等の多能性幹細胞を用いたヒト胚類似構造体の誘導や、受精卵へゲノム編集技術を適用する基礎研究がおこなわれる等、生命科学の急速な発展にともない、将来これらの技術が臨床応用される場合にどのような課題が生じるのかについて、国や一部の専門家だけでなく、広く社会の中で検討を進めておくことが重要であるとして、どなたでも参加可能なオンライン形式で開催されます。

つきましては、貴会におかれましても本件に関しご了知いただきますとともに、周知方につきましてご高配のほど、よろしくお願い申し上げます。

【事務局】大阪府医師会 学術課

〒543-8935 大阪市天王寺区上本町2-1-22

TEL：06-6763-7006／FAX：06-6764-0267

日医発第 1486 号（技術）
令和 5 年 11 月 24 日

都道府県医師会担当理事 殿

公益社団法人日本医師会
常任理事 渡辺 弘司
(公印省略)

シンポジウム「先端的な医科学技術がもつ生命倫理の課題」
のオンライン開催に関するご案内

平素より、本会会務にご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて本会では、別添のとおり 令和 6 年 2 月 29 日（木） に標題のシンポジウムを開催することとしましたので、お知らせ致します。

昨今、iPS 細胞等の多能性幹細胞を用いたヒト胚類似構造体の誘導や、受精卵へゲノム編集技術を適用する基礎研究が行われるようになり、遺伝性・先天性疾患のメカニズムの解明や予防・治療法の開発に期待が寄せられる一方で、「生命の萌芽」と位置付けられるヒトの受精卵についての定義を再検討する必要が生じてきています。本会では、小職が内閣府総合科学技術・イノベーション会議の生命倫理専門調査会等に参画し、生命科学の急速な発展に対応すべく議論を重ねてまいりましたが、仮に、将来これらの技術が臨床応用される場合にどのような課題が生じるのかについて、国や一部の専門家だけでなく、広く社会の中で検討を進めておくことが重要であることから、今般、シンポジウムを開催することと致しました。

本シンポジウムでは、世界をリードする最新の基礎研究に関する講演 2 題と、将来の臨床応用を想定した場合に検討しておくべき倫理的・法的・社会的な課題をわかりやすく解説する講演 1 題を予定しております。多くの方に生命倫理に対し興味を持って頂く機会とするため、どなたでもご参加可能な オンライン形式 で開催致します。日医公式 YouTube チャンネルのライブ配信で視聴可能であるほか、日医 Web 研修システムへの事前参加申込・受講・確認テストにより、「日本医師会生涯教育制度」（CC3：1.5 単位）並びに「日本専門医機構認定共通講習」（医療倫理：1 単位）の単位が取得可能です。

つきましては、貴会におかれましても、本件についてご了知いただきますとともに、貴会管内関係団体等に広くご周知くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

○別添：リーフレット

○日本医師会ホームページ：

https://www.med.or.jp/people/info/doctor_info/011431.html

シンポジウム
「先端的な医科学技術がもつ生命倫理の課題」
～どこまでその技術を使ってよいのか？
技術が画期的であるほど倫理的課題が生じる。
その課題を分かりやすく解説する！～

2024年2月29日(木)
17:00～19:00

オンライン開催
参加費：無料

主催：公益社団法人日本医師会

司会：渡辺 弘司(日本医師会常任理事)
開会挨拶 松本 吉郎(日本医師会会長)

17:00～17:05

座長：永井 良三(自治医科大学学長)

シンポジウム①

17:05～17:40

多能性幹細胞からヒト胚に類似した構造を誘導する研究の最新知見と展望

高島 康弘(京都大学iPS細胞研究所 未来生命科学開拓部門)

iPS細胞に代表されるヒト多能性幹細胞を用いることでヒト胚に類似した構造体を誘導することが可能になった。究極的な臓器を作りだせる可能性が膨らむとともに新たな生命倫理問題も惹起している。世界的に研究が加速する本分野を概説する。

シンポジウム②

17:40～18:15

受精卵へのゲノム編集遺伝子研究に関する世界的な取り組みや考え方

阿久津英憲(国立成育医療研究センター研究所 再生医療センター)

ゲノム編集技術が進展する中、2018年にゲノム編集ベビーが誕生。受精卵へのゲノム編集は遺伝病のリスクを低減する可能性があるが、科学的・医学的な憂慮事項はまだクリアされていない。国際的な議論で科学的ガバナンスの模索が進行中。受精卵の課題についても報告する。

シンポジウム③

18:15～18:50

倫理的・法的・社会的な課題とその解決に向けて

神里 彩子(東京大学医科学研究所 生命倫理研究分野)

人の生殖に関わる新しい技術は、「生命」「親子」「家族」の概念、そして、これらを基盤とする社会に影響を及ぼし得るものである。そのため、新技術を社会としてどのように利用していくか議論が必要である。本報告では、議論が必要な課題を概観し、その解決に向けた道筋を考えたい。

意見交換

18:50～19:00

<問い合わせ先> 日本医師会医療技術課 igika@po.med.or.jp

参加方法、単位取得条件等は裏面をご覧ください

参加方法、単位取得条件等

- ◆参加者は、医師、医療関係者、学生や関係者等で、生命倫理に関心のある方あるいはこれまで学ぶ機会の少なかった方を広く対象とします。
- ◆参加費は無料です。

【日本医師会Web研修システム】

<https://seminar.med.or.jp/Workshop/CourseDetail/MTMyOTU-F>



※医師の方で単位取得を希望される方は、事前参加申込み(12月開始)の上で、当日、受講してください。

- ・日本医師会生涯教育制度(CC3:1.5単位)
- ・日本専門医機構認定共通講習(医療倫理:1単位)

※事前参加申込みはスマートフォン、パソコンで行うことができますが、当日はパソコンで受講してください。スマートフォンで受講はできません。

※単位取得には、シンポジウム①～③を受講し、確認テストに合格することが必要です。なお、確認テストの解答期限は、3月7日(木)です。

【日本医師会公式YouTubeチャンネル】

<https://www.youtube.com/channel/UCrZ632iTbtYIZ5S2CtGh6rA>



※事前参加申し込み不要で、当日ご覧いただけます。

※後日、アーカイブ配信を行います。

- ◆当日参加された方は、アンケート(無記名)にご協力をお願いします。

<https://forms.office.com/r/1yhGUyLAAb>

※回答期限は、シンポジウム開催当日中です。

※ご回答いただいた内容は、シンポジウムの振り返りにのみ使用いたします。

【参加者アンケート】シンポジウム：先端
的な医科学技術がもつ生命倫理の課
題

